

気管支可逆性検査

概要

気管支拡張薬の吸入前後でそれぞれ同じ呼吸機能検査を行い、その検査結果を比較する検査です。

検査方法

呼吸機能（スパイロメトリー）検査を行った後、気管支拡張薬を吸入していただきます。15 分後、再度同じ検査を行い、検査結果を比較します。

検査で分かること

気管支拡張薬の吸入前後の検査結果を比較することで、気管支喘息の診断やその治療効果を評価するために実施されています。吸入前より吸入後で肺活量や 1 秒間に吐ける息の量が増加している場合、気管支喘息が疑われます。

この検査では以下の 2 種類の項目について調べています。

1. 肺活量 最大限大きな呼吸をした際の空気の量を調べます。
2. 努力肺活量 勢いよく息を吐き出していただき、1 秒間に吐ける息の量を調べます。

注意事項

- ・患者様の努力次第で検査結果が変わることがあります。最大限の呼吸をしていただきますので苦しい検査ではありますが、正確な検査結果を得られるように可能な限りご協力をお願いします。
- ・マウスピースから息が漏れてしまうと検査をやり直しさせていただく場合があります。口が閉じにくい場合は紙のマウスピースの他にシリコンマウスピースを準備できますので、担当技師にお伝えください。
- ・コルセットなど締め付けが強いものの着用により最大限の呼吸が難しい場合には、緩めていただくか、外していただく場合があります。
- ・気管支拡張薬の吸入後、15 分間の待ち時間での飲食はお控えいただき、口が乾燥する場合には口をゆすぐなど潤す程度にさせていただきます。

所要時間

約 30～40 分程度

よくある質問

Q：上手くできないのですが、私だけですか？

A：日常ではあまりすることのない口呼吸をお願いしていますので、慣れるまでに時間がかかる場合があります。担当技師が声掛けをしながら検査を行いますので、そのタイミングに合わせてできる範囲で行っていただければ問題ありません。

Q：入れ歯をしていますが、問題ないですか？

A：問題ありません。マウスピースがくわえにくいなどがある場合には外していただいても構いません。

